

県営棚葉瀬地区 土地改良事業（農業用排水施設）計画概要書

1 土地改良事業計画の概要

（１）事業の目的

本地区は、相良村中央部から南部に位置し、一級河川川辺川沿いの水田地帯で、水稻を中心とし、ソルガム、カボチャ、メロン、イタリアンライグラスなどの複合営農が展開されている地域である。

地区の用水路は、昭和 43～45 年度に団体営土地改良事業で管水路の整備を行い、安定した農業用水の供給により生産性の高い稲作農業が営まれている。

しかし、事業完了後 50 年以上が経過する中で老朽化が進み、近年は破損事故による漏水の増加など、用水の供給機能が低下し、施設の維持補修費に要する費用も年々増加している。また、管水路には石綿（アスベスト）管が使用されていることから、石綿（アスベスト）障害の予防も含め、地元から一刻も早い改修が望まれている。

このため、早急に施設の改修を行い、漏水・破損事故等の発生及びそれに伴うアスベスト飛散を防止することにより、農業生産の維持、農業経営の安定化を図るものである。

（２）施行に係る地域の所在、地積及び現況

① 地域の所在 熊本県球磨郡相良村

② 地積

地 目 市町村名	現 況					計 画				
	田	畑	道・水路	その他	計	田	畑	道・水路	その他	計
相良村	36.0				36.0	36.0				36.0

③ 現況

1) 地形

相良村は、熊本県の南部、球磨盆地のほぼ中央にあり、日本三急流の 1 つである球磨川の支流川辺川が北から南にかけ貫流し、北部は山岳が連なる山林地帯であり、南部に至るにしたがって平野が拓けた農耕地帯を形成している。

2) 水利状況

a 用水状況

本地区の用水路は、昭和 43 年度(1968 年)～45 年(1970 年)に団体営土地改良事業で整備され、事業完了後 50 年以上が経過しており、管路は石綿(アスベスト)管が使用されている。近年では破損事故による漏水の増加により用水路の供給機能が低下し、施設の維持補修費に要する費用も年々増加し、営農に支障をきたしている。

b 排水状況

本地区の排水路は、未整備(土水路)である。

3) 道路状況

本地区の道路は、広域農道(フルーティールード)を幹線とし、村道及び農道が農地に隣接している。道路は概ねアスファルト及びコンクリート舗装である。

4) 営農状況

本地区は、相良村中央部から南部に位置する川辺川沿いの水田地帯で、水稻を中心とし、ソルガム、メロン、カボチャ、イタリアンライグラスなどの複合営農が展開されている地域である。

5) 地域環境の状況

相良村北部に位置する山林地帯では、ヤマシャクヤクや村花である福寿草などのめずらしい草花が生息しており、川辺川にはヤマメや鮎などの川魚が数多く生息している。また、役場横に位置する、ため池周辺の湿地ではハッチョウトンボやチョウトンボ、草花ではオオホシクサやデンジソウなどの絶滅危惧種が生息しており他の地域に誇るべき水辺の自然環境が今もまだ残っている。

(3) 基本計画

① 要旨

国及び県では、平成 17 年(2005 年)に施行された「石綿障害予防規制」にもとづき石綿管への対策として特定農業用管水路等特別対策事業を実施しており、本地区においても同事業に早期に着手し、石綿管を撤去し、漏水・破損事故等による周辺地域へのアスベスト飛散を防止し、農業経営の安全及び農業の維持を図る。

② 事業別面積

農業用排水施設 A=36.0ha

③ 用水量及び排水量

計画用水量 Q=0.229m³/s

(4) 工事計画

用水路工（パイプライン） 撤去 L=5,925m、モルタル充填工 L=50m
新設 L=4,820m

(5) 環境との調和への配慮

本事業は既設道路下への管路布設工事のため、生物への大きな影響はないものと想定される。

(6) 換地計画の要領

該当無し

(7) 費用の概算

主要工事費	1,004,000 千円
測量及び設計費	120,000 千円
用地費及び補償費	15,000 千円
換地費	0 千円
附帯工事費	0 千円
小計	1,139,000 千円
地方事務費	57,000 千円
総事業費	1,196,000 千円

(8) 事業の効果

区 分 \ 項 目	年増加見込効果額	年増加見込所得額
食料の安定供給の確保に関する効果	4,541	—
農業の維持的発展に関する効果	—	—
農村の振興に関する効果	—	—
多面的機能の発揮に関する効果	69,130	—
その他効果	993	—
合 計	74,664	—

(9) 地区を数区に分けた場合は、その旨及び理由
該当無し

(10) 他事業との関係
該当無し

(11) 計画概要図
別添資料参照

圖文概要

石綿管撤去及びモルタ

